

大竹市指定重要文化財

史跡 木野川渡し場跡

ここは安芸周防の国境にあつた西国街道の「木野川渡し」の場所である。市域を通る江戸時代のこの街道を東から西に進めば大野村鳴川おおのなるかわから玖波村くわばに入り、馬ためし峠を越えて玖波駅に着き、海岸沿いに黒川村小方村下の町を経て、これから山手に方向を変え苦くの坂さかの急坂を登って滕池神社ちきりいけの側におり、木野川沿いに下つてこの渡し場に達する。

当代における渡し場附近の状態は、舟渡しの所で川幅十二間メートル（二一・八米）水深四尺五寸（一・三六米）徒歩渡りの所で川幅十二間（二一・八米）水深二尺二寸（〇・七米）程度であつた。「舟渡し」は木野、小瀬おぜ両村から出された「渡し守り」が二人一組で昼夜交替して行い、その費用は芸防両国で負担した。

また、「渡し賃」は江戸時代の中期で武士階級が無料、その他の者が一人につき二文、牛馬が一頭につき四文であつたといわれる。

この渡し場を渡れば周防國小瀬村であり街道を西に進めば関戸に至る。